

建設Aで財務省交渉 インボイス延期・中止を要望

6月15日、レジオンセンター（共産）が連帯のあいさつを行ないました。次に参加団体から連名で、「インボイス導入の延期・見直し・中止を求める要望書」を財務省へ提出しました。財務省からは、インボイスは複数税率を守り、適正な課税を確保するために必要なものとの回答がありました。



財務省職員に要請書を渡す建設アクションの代表

この複雑でも対応できない「元請から締め出される心配がある」「値引きを強制されたらどうするのか」など切実な実態を訴える発言が相次ぎました。



国会前集会参加の仲間

6月19日、定例の絵がかり行動が国会前で開催されました。天候に恵まれ、1300人（東京土建は56人）の参加となりました。冒頭のあいさ

つで、9条壊すな！絵がかり行動実行委員会の菱山南幌子さんは、「国会で戦争につながる数々の悪法を通した岸田政権を絶対に許さない。来る総選挙ではみんなで打倒していきましよう」と述べました。

に参加した板橋支部の山本清さんは、「憲法は守らなければならぬ。今年が正念場だ。岸田政権は本来ならば国会を解散すべきだ。もっと国民の方を向いた政治をしてほしい」と述べました。

最後に国会に向かって、「原発推進絶対反対」「軍事費増絶対反対」「改憲発議絶対反対」とシヨプレヒコールを行ないました。

とまじめにした労働協約の締結を進めています。来年4月の働き方改革の完全実施に合わせた労働基準監督署の動きが懸念されます。働き方改革セミナー等、個別にはなかなか対話が進みませんでした。目的を共有できれば、ハードルが下がることが分かりました。事業所と従業員をともに守れるように、労働協約締結事業所を上げていきます。

国会前で怒りの一揆 インボイス増税もう無理

増税もう無理、STOPインボイス国会前全国一揆が6月14日に国会正門前で開かれました。全国20カ所を襲ぎながら全体で2500人、東京土建からも116人が参加しました。

増税もう無理、STOPインボイス国会前全国一揆が6月14日に国会正門前で開かれました。全国20カ所を襲ぎながら全体で2500人、東京土建からも116人が参加しました。

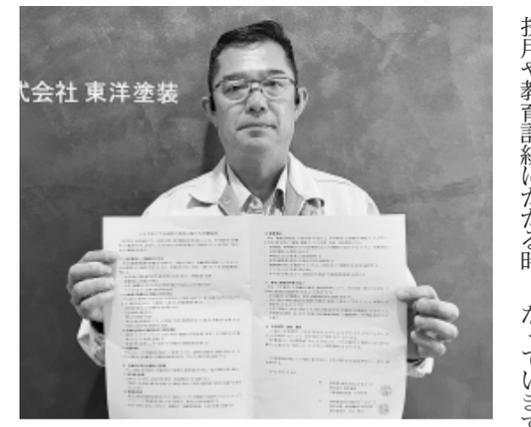
このあいさつで、会はずなりの人たちが、ストップインボイスの旗を掲げ、国会議員も多く駆けつけ、「更なる消費増税をたくらみ、複数税率を見越してインボイスを強行している」（共産党・志位和夫氏）、「増税もう無理というスローガンが秀逸、ライター阿部伸さんの思いを全国で共有しよう」

氏などあいさつし、共に中止を呼びかけました。メイン、サブを問わず日本のカルチャーの支える多くの人たちと、フリーランス、農家、税理士など、人々のくらしに寄り添う人たちが国会前で声を合わせた。東京土建の大木栄一税対部長は西多摩支部の仲間の



訴える大木税対部長

作ったむしる旗と共に仕事着で壇上上がり、建設を代表してこの制度の中止を訴えました。



(株) 東洋塗装の木村社長

文京支部ではこのよう背景を踏まえて「求職者から選ばれる事業所」、「職人が定着する事業所」をつくるため、東京土建の各事業主との定期懇談、事業所連絡員、各種学習会、社労士ネットなど

政府は6月16日、経済財政運営の基本指針である「骨太の方針2023」と新しい資本主義の実行計画の改訂版を閣議決定しました。

今月の主張

なる軍拡財源確保のための増税は先送り不透明なままです。そして、岸田政権が目玉としていた「異次元の少子化対策」について24年度から3年間で年3兆5千億円

軍事優先では財源示せぬ

規模の予算追加や児童手当拡充などを盛り込みましたが、少子化最大の要因となっている教育費負担については、財源根拠を示せず年末まで先送り、「子ども予算増」については

30年代初頭まで先送りをするなど、政策・方針としてはあまりにも不十分です。少子化対策のこ入れは急務であり、予算の大幅増に国民の異論はありません。しかし、その財源

軍拡を止めよう ピースウォーク800回の節目



区内を歩く参加者

【目黒・書記・根井良聡通信員】「めぐろピースウォーク」は、2003年のイラク戦争反対をきっかけに始まりました。コロナ感染拡大に伴い中止となりましたが、2022年にロシアのウクライナ侵略が続く3月31日、「もう黙ってはいられない」と、目黒支部などの呼びかけで再開しました。

この日は「800」と書かれたバルーンやプラカードを持った28人が参加しました。20年目を迎える今、岸田政権の大軍拡、米軍との一体化が加速しています。目黒から軍拡を止め、「新しい戦前」にさせない為にも、歩き続けていく決意を再確認する節目となりました。